

わたしの好きな よこい

No.166

年始の風物詩となった寄居町消防団出初式が、1月10日にかわせみ荘グラウンドで行われました。

当日は、冷え込みの厳しい早

朝から消防団員が一堂に会し、きびきびとした動作で点検を行い、統制のとれた行進を披露していました。

その後は、かわせみ河原で一斉放水訓練を行っていました。消防団長の合図で消防ポンプ自動車8台から消防ホースが延ばされ、防火服を着用した消防団員が荒川に向け一斉に放水を開始すると、その壮大な放物



制野明義さん
(立ヶ瀬)



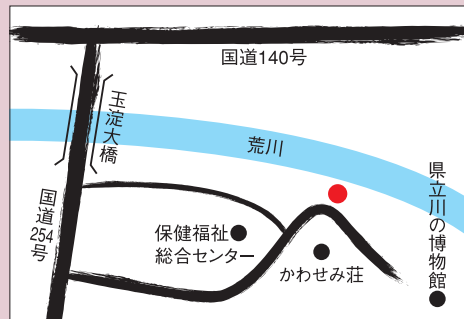
< 新年の風物詩～出初式～ >

線に目を奪われ、勇壮な団員の姿にしばらく見入ってしまいました。

これら一連の行動を拝見していて、大変頼もしく、心強く感じられました。日ごろは自分の仕事をされているにもかかわらず、いざというときには、私たち市民の生命、財産を守るために、昼夜を問わず火災時における消火活動や防災活動に従事してくれる消防団員は、地域になくてはならない存在だからです。

年頭の出初式で、防火・防災の誓いを新たにされた消防団員には、これからも健康に留意し、地域の安全と

安心のため活躍されることを切に願わずにはられません。地域に密着し活動いただいている消防団は、私たちが安心して生活できる礎であると、再確認したのは、私の他にもいたのではないのでしょうか。



わが町の



陶芸の達人

No.34



阿部喜代子さん (男衾上郷北)

自然豊かな寄居町に移り住んで30年になります。今ではこの寄居町が大好きです。まだ子どもたちが幼いころ、町の産業文化祭に足を運んだ時「陶芸クラブ」の文字が目に入りました。思わず作品に見入ってしまいました。どの作品を見ても、素晴らしい作品でした。家庭で使えるお皿やお茶碗を自分の手で作ることができたらいいなと思い、趣味として

習ってみたいと強く感じました。それが、陶芸を始めるきっかけになりました。

私が陶芸クラブに入会したのは40歳の時です。今年で20年になります。松崎季広先生の熱心なご指導と、クラブの皆さんの支えがあったからこそ、長く続けられたのだと思います。

毎年3月に開催される生涯学習まつりでは、展示用やバザー用の作品を作り、即売もしています。また、上郷北区公会堂で開催されるふれあい作品展にも出展しています。地域の方たちからおほめの言葉をいただくと、陶芸を長くやっていたよかったと心から思います。

最初は趣味で始めた陶芸でしたが、7年前、趣味が高じて、庭先に工房と窯を設置しました。窯は地域の名前をいただき「平ヶ谷戸窯」と名付けました。

一つの作品を作り上げるには、集

中力が必要です。まず粘土を練り、轆轤に据え、「芯だし」をします。この「芯だし」がうまくいかないと、いい作品はできません。しっかり芯を出し作陶します。できあがった作品をよく乾燥させ、8時間かけて素焼きをします。その後、一つ一つ釉薬をかけて本焼きに入ります。本焼きは14時間かけて徐々に温度を上げ、1,250℃で火を止めます。

1日から2日、窯の中で冷めたら、いよいよ窯出しです。私が一番ドキドキする瞬間です。うまく焼きあがっているようにと祈る気持ちで窯を開けます。イメージ通りの作品が出来たときの感動は、言葉では言い表せません。反面、うまくいかなかった時は、次こそ！といった気持ちになります。

これからも素朴でぬくもりのある器を作陶したいと思います。

